

とんからりん

サカタニ友の会ニュース

京の、わらべ

京東通での七条の値打

歌に旧京都市内の東西の通りの丸太町(御所南側通)、九条通(東寺)までの通の「頭字」を歌にした「丸竹夷」がある。昔は五条迄だったと思ってるが今は九条迄。これを覚えてみると、基盤の目のような京の中心部では迷子にならない歌だ。
(左欄：市電の通を導く丸太町路を出る市電路線が有る歌は入っています)

東・西の三方山に囲まれ、南方向のみ平な山城の地に、桓武天皇が遷都(794)された。そこには(現右京区あたり)秦氏、鴨川の上流には賀茂氏(左京区)が住んでいた。御所その中間に割り込む形、北山を背に、開いた南を正面にして町が形成された。御所(北土)と尊いとの意識が千二百年間続いた京都である。

明治に東京に遷都されても永年の流れは直ぐには変わらない。地形も北が高く南が低い地形も事も有るか、町の改修等々も北(上)から南(下)の順序が常識になっていた。(これを北東單思と云う入る) 極最近になって、京都駅を中心にした一帯(七条通り)が見直されてきた。

さて、七条通りの値打ち。
この通り東の「ドンキ」(西側)は智積院、北側は京都国立博物館、南側は、元賀陽宮邸(三十三間堂)現在在る海境をオマケに北側には京都女子学園に向



ドンキから西を見る
わが店は坂の下
坂(通称は朝夕若い女性で満ち溢れる。このようなかげやうな世界中心に思っ

そして戦火を逃れ、明治昭和の風情を残した建物。東西の本願寺や神社、中央市場、梅小路水族館がある。来春には日本最高設備の鉄道博物館が梅小路にオープンする。七条通は、こんなバリエーション豊かな通りなのだ。



更には妙法院の境内で平安時代末期の庭園遺構である積翠園(とよきいふ武田病院跡地)超高級ホテルフー

シーブズホテル(186室)2015年初旬開業の予定工事。来春には員教中。来年?には員教小学校の後に京都美術工芸大学東山キャンパス。崇仁小学校跡現在桂路西二丁目にある京都芸

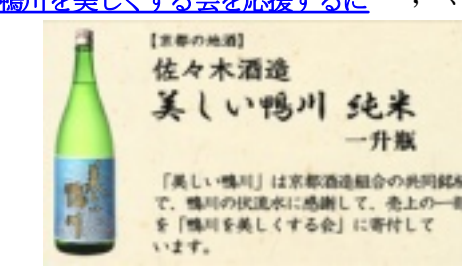


昔の姿に戻した姿の写真
中。来年?には員教小学校の後に京都美術工芸大学東山キャンパス。崇仁小学校跡現在桂路西二丁目にある京都芸

まる、丸太町通り
たけ、竹屋町通り
えびす、夷川通り
に、二条通り
おし、押小路通り
おい、御池通り
あね、姉小路通り
さん、三条通り
ろっかく、六角通り
たこ、蛸薬師通り
にしき、錦小路通り
し、四条通り
あぶつ、綾小路通り
たか、高辻通り
まつ、松原通り
まん、万寿寺通り
せきだ、雪駄屋町通り
ちやらちや、鍵屋町通り
おのたな、魚の棚通り
ろくじょう、六条通り
すぎで、しち、七条通り
はち、八条通り
くじょう、九条通り
ど、東寺でどめさす。
♪歌のころは、頭の「かな部分」

1.8L 2160
720ml 1048
300ml 409
京都府内・佐々木酒造
本醸造 旨味
有り
当社の監製・

鴨川を美しくする会を応援するに



1.8L・2044円
720・mL1049円
300mL・409円
佐々木酒造の現社長は、俳優の佐々木蔵之介さんの弟さんです。

京都洛中で蔵は二つ、その一が上京区佐々木酒造さん。
識も高まり生産力は上がった。人工の長期保存食物もつくれる時代になり同時に「命を戴く」とい感覚が希薄になった。
▼感謝の言葉は家庭で使わず学校給食は食べ始め合図化。我がファミマでも「食品ロス」を捨てることが多い。勿体ないこの極み
▽敗戦後70年、前戦争中の飢えを知る人は忘れ、戦を知らない人は、今の豊かさが、永遠に不滅と思ってる。が油断大敵。
▼戦後の出発点の「ボツダム宣言」を知らないおぼっちゃまが日本のトップ。原発と戦争の二重苦が来そう!。重ねて油断大敵。

第3日曜日開催日5月17日(定例:朝9時~) 第124回朝粥食べおしゃべり会

ご講演・丹羽潤(じゅん)様: 報告者高木英智様

発行者
株式会社サカタニ
集西祭サカタニ
ファミリーマート
サカタニ京阪七条店
〒605-0993 京・東山区七条三丁目
TEL・075-561-7974
URL www.sosake.jp/
E-mail info@sosake.jp
毎月発行の
会員新聞です
編集・山谷義郎
vosirou@sosake.jp

朝粥食べておしゃべり会
恒例食前お話し・丹羽潤様
お題・人生、おかげさまで生きています



そして、仕事にまつわるエピソードが語りたれ、飲料メニューが豊富で、大阪神楽坂の繁華に、倒壊した自販機撤去で「地震の大きさ」を実感し、損保会社では東北地震にばかり注目があつた。高麗の姿勢に感謝された。高麗人への会社では事業立ち上げに腐心。そして、現在は、顧客の心を虜にして、名古屋から展開エリアと店舗数を急拡大している喫茶店チェーンの経営に参画。だれかの役に立っている、喜ばれているという、やりがいがあって、人はひとりでは生きていけない、だれかの支えが必要なきもあると語り、みなさんも私もそれだけの場面であれかの支えを受けていると熱く語る丹羽さんは娘さんのよき父親でもある、人に対するあたたかいまなざしにあふれる男前であります。

今回の講師は「人生、おかげさまで生きています」と題し、「何をしたい」というのが無い」と謙遜される。丹羽さん。
ところどころがお話を伺ううちに多彩な活動にただ驚くばかり。現在、47歳。朝粥の会講師史上最年少?の若さで聴衆を釘づけに。語られたのはライフワークの取組。ひとつめは「ゲートキーパー」。悩んでいる人に支え、声掛け、話を聴き、支援につなぐ。見守る人のことだそう。ふたつめは「メンター」。大学生、社会人8人の若者の支援、助言をし、人を導くことは自分自身も律することができるとなると。みつつめは「素人カメラマン」。阪急電車を撮るのがいちばん多いそう。

どんつき

▽今号の
とんからりんP4
月三三「さん」のご投稿を転載しながら我々も、植物達の敵だ辛い気分になった。

▼食物達が子孫を残す目的で作った種。そして「己自身(葉茎実)」も人間も含む動物が食物として「命」を奪うのだ。
▽植物は「木」として空気があるれば命はつづけるが、人間(動物)達はそれだけでは、地球という星では生きられない。
▼来月は七夕。満天の星を眺める人も多い。が「地球」としてくりな星は今も見つかっていないのか。地球は奇跡の星だ。▽その星に「命」が出来て、動植物が発生し、食う食われる「連鎖」の空間で人類は育ち、膨大な時間を得て現代人に至っている。
▼様々経験えて、他の動植物を食(殺さざる得ない事を認識し食の前後に「いただきます」「馳走様」と感謝の言葉した。昔は。▽知識も高まり生産力は上がった。人工の長期保存食物もつくれる時代になり同時に「命を戴く」とい感覚が希薄になった。
▼感謝の言葉は家庭で使わず学校給食は食べ始め合図化。我がファミマでも「食品ロス」を捨てることが多い。勿体ないこの極み
▽敗戦後70年、前戦争中の飢えを知る人は忘れ、戦を知らない人は、今の豊かさが、永遠に不滅と思ってる。が油断大敵。
▼戦後の出発点の「ボツダム宣言」を知らないおぼっちゃまが日本のトップ。原発と戦争の二重苦が来そう!。重ねて油断大敵。

ヨシちゃん のひとりごと



商いと人情③

三十年前
迄は酒

屋と米屋さん儲かって宜しいなあ」と
良く言われたものだ。(厳しい酒免許制
度・競合が少な) 所がそれは小売りの
段階の話で、酒卸の業界は別、
酒の醸造・ビール生産量が増え、食の
洋風化で洋酒の売上げが急増した。
トリスを飲むバワイに行こう時代が来
た。

当時、京都府内には酒卸の店が36
店有った。今は全国規模を除けば卸
営業だけの店は数店になつてゐる。

それに至る間は、猛烈な価格競争が
起こつた。その頃、酒小売さんから仕
入れ価格をお父さんか・東郷さんか
と尋ねられる。当時は日本酒などは
10本入木箱。お父さんは10本に本の
オマケ。東郷さんは5本のオマケの符丁
だった。小売屋さんの段階では、業
務用を除けば、殆ど値崩れはなく、
恐らく小売店の利益率は35%は有つた
だろう。大儲けが出来た。

その分「酒卸業」は大変。多額の遣
込事件で資金を失つた我が店は、倒
産寸前、仕入先の支援の出資を得て
法人化し、暫時の休業を挟んで酒卸
業を続けた。支援は私が、酒卸の仕
事に参加する条件付きだった。

当時、酒屋を継がないと決め、家
を飛出し、南山城大水害の後の井手
町木津川堤防上の小屋に住み、昼
間は支援活動、夜は政治活動をして
いた。どうしても酒卸を続けた言っ
い父の気持ちを受け、活動任務を外

してもらい、家に戻り事についた。
酒卸業から酒小売店を訪問して
ご注文を戴くセールスから始めた。

倒産寸前だったので、初心に戻つて
法被に掛けの姿で、東山・左京区
リアを担当してセールス訪問した。特
に近くを重点的に訪問をしたが、成
績は上がらなかった。仕方なく山科や
滋賀南部にエリアを広げ販売先を増
やし何とか売上も安定した。

私は、近々付き合ひが有つても不
安定な先からは買ふ必要がないと思
えられて当然、判官贔屓は商売に
は無縁・自力も大切だと悟つた。

新開拓のセールスポイントは、情報提
供第一。流行は東京大阪・京都と流
れ、TVもネットも無い時代。業界新聞
等々で、何がどの様にして売れてい
るかの情報提供。私の月3回の訪問を
お待ち下さる得意先も出来た。人情
はネットでは心までは伝わり難い。
「とんからりん」も「集西楽」もおれ
あいを深める気持ちの表した心算。

おうちが 段々遠くなる 石動敬子

仮設はいやと自ら命を絶つた
檜葉町の老女の死を、テレビが
伝えていた。亡き母の面影に通
じるものがあり、涙を誘われた。
同じ福島だが、友人宅の中学
生に放射能のモニター調査がき
たとき、「お母さん、僕たち実
験台なの」と叫んだという。

4年前、その息子さんは8歳。
3・11の時も、炊き出しのおか
あさんたちにまじり、おにぎり
をにぎつて「もつともつと助け
たい」と頑張つてくれたという。
2年前、そんな郡山の、某小学
校の少年少女とその保護者に阿
闍梨餅を届け、後日、
20数人の歌で訪問し
た私たち合唱団同窓会
ほかであり、マイ支援
組織やマユリの会だつ
た。一緒に「ビリーブ」や「花
は咲く」を歌つた。

真つ白な雪道に春風が吹けば、
春が来て、花が咲き、果物が実
り、お米がとれて、学校の四季

もめぐり、人の暮らしも潤つて
いくはずだった。
うつくしま、福島に、地震、
は避けられなかった。火山帯の
走る、この国に暮らす以上。し
かし、4年前の原発事故は違つた。
全然違うのだ。性格が、規模が、
影響の及ぶ深手が、
なのに、原発はやめようとは
ならなかった。それどころか、
戦争や原発を「商品」として売
り込み躍起になり、世界にうつ
てでている。

大自然と共生している普通の人の
間の暮らしや、願い、恐れ、叫
びなど、目に入らない国の政治
も、リニアモーターカーの速さ
で、「戦争」という目的地へ急
いでいるかのようだ。

「もうかる」戦争を始めたかつ
たら、アメリカにつくのが手つ
取り早い。お金で雇われている
プランナーが日夜戦略を練る。
ばくち打ちのゲーム感覚で提案
する。「オスプレイを倍額で買
受けなさい」。ヒットラーの手
口で「平和」のためと百回言え
ばイメージが好転し、まあいい

の作者は考えたという。
稲荷山では千本鳥居をぐぐり抜けた
奥社付近から頂上の一ノ峰にかけて
参道沿いに10カ所、約30本が自生
している。梅雨の頃になると可愛い白
い花を咲かせ、1日にして落ちた花が
参道の石段に散つてゐる。多くの観光
客は関心もなく踏みつけていく。私は
参道から離れて山に入ることは無い
ので、参道沿いの3カ所くらいしか確
認してない。

近畿地方では、奈良県の大台ヶ原で
散見される程度で、稲荷山のような
市街地近くの低い山では極めて珍し
い。

か、お上の言うことに間違いは
なからうと麻痺するだろう、な
どとあの手この手で昼夜をおか
ず、注進に及んでゐるだろう。
思うに既にルールは敷かれ、ボ
タンを押すのを待つだけの戦争
状態に入つてゐるのだ。

その手にかかつて台無しになら
んように舵をきるのは、おとな
たちの使命だと思う。ずる賢い
人たちは別の各駅停車で、よ
くよく対話し、協力を募つてと
いう、手間がある。これが民主
主義であり、憲法の心だと思ふ。
だから今、歌う。集まる。訴
える。先の戦争の痛恨の極み、
殺し殺される戦争はいらない。

6月が来る。ホトトギスが啼
き、ユリが咲き出し、螢が舞う。
「おうちが段々遠くなる」と寂
しくつぶやく人たちを一人にし
てはいけない。顔の見える支援
行動のひとつ、みちのく行き、
大人のわたしたちが、子
供たちの前で「歌う」修
学旅行にいつてきます千
個の阿闍梨餅を手土産に。



神奈川県は箱根山などに多く自生
するこのヒメシヤラを天然記念物に
指定して大切に保護している。
妙心寺塔頭の庭のナツツバキ「ヤブ」
が沙羅双樹としてよく新聞紙上に
も載り注目される。
残念ながら稲荷山のヒメシヤラはあ
まり注目されてゐないに思ふ。大
切に保護する方策をぜひ考えなけ
ればならない。
私は以前、箱根に出かけた際にヒ
メシヤラの群生を見かけたことがあ
るが、稲荷山の場合数は少ない。し
かし、京都府の条例などでなんとかな
らないものだろうか。

稲荷山 ぶらり散策記⑧ 越智重史



あまり知られていないが、稲荷山は
ヒメシヤラの自生地である。
祇園精舎の鐘の聲
諸行無常の響きあり
沙羅双樹の花の色
盛者必衰の理をあらわす
奢れる者も久しからず
ただ春の夜の夢の如し
猛き人もついに滅びぬ
ひととに風の前の塵に同じ

御存じ平家物語の冒頭部分、この
沙羅双樹はヒメシヤラだという説
もある。
ヒメシヤラは日本固有のツバキ科
ナツツバキ属の落葉樹で、神奈川県
を北限とし鹿児島県屋久島にかけて
太平洋側の標高700mから千mの高
冷地に自生する。
6月に入ると直径5cmの白い可憐な
花を咲かせる。木肌がサルスベリに似
ているのでよく間違ふ。
1日で花を落とすので、1日花として
知られている。朝に咲き夜には落ちて
しまふ。このはかなさが平家一門の
盛者必衰を表している平家物語

京都&東山 ぶらりピカリ

61

しちじょうとおり

七条通

④ 東山

「ぶらり」の欄では有るが下京に入る。市電の走っていた時代は、琵琶湖疎水、鴨川に橋が有った。疎水の橋は、京阪地下化で消えた。高瀬川の七条小橋は消えた橋と双子の様に似ている。

その高瀬川は、江戸時代初期(611)に角倉了以・素庵父子によつて、京都の中心部と伏見を結ぶために物流用に開削された運河。大9年(1920)までの約300年間京都・伏見間の水運に用いられた。

現在の高瀬川は、昭7(1932)年の改修工事で鴨川からの取り入れ口から二条下(㊦)まで地上から見えない。更に塩小路下(㊧)で鴨川で京都側と伏見側で分断されており、上流側を高瀬川、下流側を東高瀬川、新高瀬川と区分けられた名で呼ばれている。川に沿った通りは二条から七条まで「木屋町通」の名前。運河沿いに薪炭や材木を扱う人が多かったたのでその名が付いたのだらう。森鴎外短編の「高瀬舟」によると「罪人」を運んだともある。川沿いに桜が多く春は特に美しい。

私が「枳殻邸」の名を知ったのは、貞教尋常小学校に入学直後。ジフテリアに被病、祖母が府立病院へと走る途中、前号で記した「内浜」河原町七条上(㊧)で

長い土塀塀が見え此処は何処?と聞き「枳殻邸や」と言われて知った。手術で喉を切開し助かった。今は殆どないが、その頃は死亡率の高い病気が多かったらしく、回復後登校したら、「お前の為に、学校全部消毒で白くなったと言われた。」

後で病院に同行した父の叔母によると「医者はおう死んでいと言ったが、死んでも良い手術はして!と強引に頼んだと言う。多分、祖父が月桂冠の招待旅行で留守だったので必死だったのだらうと思う。」

さて「枳殻邸」涉成園(しやうせいえん)は、東本願寺の飛地境内地。9世紀末に嵯峨天皇の第12子・源融が奥州・塩釜の風景を模して作庭した六条河原院が有った場所。寛永18年(1641)年、徳川家光から東本願寺に寄進され、承応2(1623)石川丈山によって書院式の回遊庭園として作庭された。今は「参観協力寄付金」として、500円以上の懇志が必要だが、以前は庭へは自由に入れたし、父が社長をして



9世紀末に嵯峨天皇の第12子・源融が奥州・塩釜の風景を模して作庭した六条河原院が有った場所。寛永18年(1641)年、徳川家光から東本願寺に寄進され、承応2(1623)石川丈山によって書院式の回遊庭園として作庭された。今は「参観協力寄付金」として、500円以上の懇志が必要だが、以前は庭へは自由に入れたし、父が社長をして

いた(株)酒谷本店(昭30年代)の株主総会に借用したこともあった。何かにつけて(女性名)手配りが良過ぎる人だった。その父を反面教師にして生きてきた私はある意味で「損」をしたと今頃は思うようになった。祖母は、「損して徳をとれ」と常に言っていたが効き過ぎた。今更遅いので私なりにしよう。愚痴って御免。

市電が走った 京都を巡る

51

福田静二



千本丸太町線を出た丸太町

西へ向かいます。長かった丸太町線の市電乗車も、あとわずかとなつて来ました。車窓から見える街並みは、ビルなどの高い建物は見当たらず、木造二階建ての民家・商家が続くようになります。

丸太町通は、ほぼ上京区と中京区を分ける通りとなっていますが、この付近だけは、両側とも中京区つまり、上京区に中京区が食い込んだ形になっています。また付近の地名は「聚楽廻」と言い、かつてこの付近に存在した聚楽第にちなんだ地名となっています。まもなく到着する停留場が「丸太町七本松」です。丸太町線の千本以西は昭和三年の開業で、その時に停



丸太町七本松に着いた市電

留場も設置されています。

交差する南北の通りが七本松通で、通り名の由来は、この付近に一株から七本に分かれた松が植わっていたことから付けられたと言われています。また、七本松通は、豊臣秀吉の市街地改造で、寺町通と同様に、市中に散在していた寺院を集めて生まれました。「西の寺町通」と言ってもよいほど、現在でも、丸太町通以北には、さまざまな宗派の寺院が軒を連ねています。

七本松通は、やや広い道路で、市電時代から、市バス52号系統が走っていました。昭和五十六年に千本通へルートへ移設され、のちに系統そのものが廃止されています。先々号で紹介した智恵光院通と同様に、市電通り以外の道路にも市バスが走っていて、市電とともに稠密なネットワークを形成していました。

市電時代、交差点の西北角には京都市立中央市民病院があり、明治十五年、上京公立避病院(伝染病院)として設立され、当時は東洋一の伝染病院となりました。

昭和四十年に、京都市立京都病院と統合され、京都市立病院となり、総合医療病院の姿となります。その後、現在の西大路五条東入るに統合・移転されます。

市民病院の跡地は、京都市急病診療所となり、さらに西隣は、昭和五十六年に、京都市中央図書館を併設した京都市社会教育総合センター(京都アスニ)が



丸太町七本松付近は低い家並みが続いていた



写真、「毎日新聞記事」でこの欄福田静二様のご本紹介の記事です。

酒屋で生きて 生かされて



第百三話

酒屋でなく④

同時に「日曜別の道探し」という杜撰の会参加加幸二回生時は前号に記した。それまでの私を知る小高の同窓生は会と「お前はエライ変わった」と驚かされる。病弱で気が弱い凄く大人しい子だった。晩年は極く普通の善良な父親になったが、中年の頃は女性絡む乱行で、家族は振り回され、商売も二度危機に瀕した。が、どんな時でも、ビクともしない祖母の存在が私たちを何時も救った。

さて、東山診療所の下のF氏宅の「日曜会」に毎週参加した。それまでの高校時代は、毎晩のように友人たちと京極辺りをクラブラ子供頃から本さえ有れば楽しく、歴史系と「プロ文」が好きで、帰りに道に蛸薬師に有った「ミレー書房」に寄り、復刊した「アカハタ」も買い読んだりしていた。

※血のメデー「翠華」ミレー氏は日曜会の重鎮、F氏も時々参加された

私は、父の酒卸の仕事を手伝いはしていたが、将来は「家」から離れ、僻地の学校で社会科系教師になろうかなあと思っていた。

大学一回生の「破防法反対デモ」に加わったりしていた。数回参加した日曜会の終了後、夫々の悩み事を打ち明ける場が持たれた。その頃、父が原因で「義理母」と祖

母、父の三者の揉め事でヘキヘキ。父と「母」のどちらにも味方出来ないで困っている悩みを「日曜会」の中心的なN・Fさんに話をした。

Fさんは「それはお父さんが封建的な所為だ。君はお母さん側にたつてお父さんの封建思想と闘え」と言われた。そうだなあと思ひ納得。「母」と共に父の行動を責めた。

数週後の日曜会でF氏に「どうだった？」と聞かれ、成果はないと答えた。F氏は「人間の思想はそう簡単に変わらないが時間が経てば君の家の方は必ず良くなる。頑張りなさい。が、日本には君と同じ悩みを持つ人は五万と居る。私たちは日本中のその様な人を救う活動している、君も仲間に加われよ。と強く誘われた。ビツリーの6月だ。

定例会議

山の植物編 月三天



「人は、つくづく完全なものを嫌いますね。完璧な美しさは飽きてしまい、便利すぎる道具は詰まらなくなる。自分たちで作ったおきながら、使いこなせなくなるのがオチな機械製品はほとんど廃棄していき。そこに愛着というものが湧かないのだからか？と思ってしまうよ」

山の中、植物たちが会議を開いている。積み上がった機械ゴミの上には新たな生命が芽吹いているのだが、土に返らない金属やプラスチック製品はやはり違和感があり見苦しい。「愛着が湧くとか以

いちばんぼし

編集史子

FunkKousetsu

夏の気配が感じられる季節になりました。

京都では蛍のたよりも届き始めているようです。夏になると夜空の星がまたたきを増し、どの季節よりもキラキラと輝いているように見えます。

太陽が西の空に沈み始める頃、真っ先に目に飛び込む明るい一番星。一番星の定義は諸説ありますが、夏の一番星と言え、こと座のベガ、別名、織姫星。織姫と彦星の「七夕さま」のお話に出てくる、あの星です。一年に一度だけの再会を許されたロマンチックで切ない七夕のお話は、小さい頃に誰もが一度は聞いたことがあるでしょう。



フリッパーズにも、七夕のような一年に一度の約束事があります。それは、一年に一度地元東山に帰り、地元のためにライブを行うことです。ギターの清水の実家は京阪七条、ウクレレの前田の実家は東福寺と、東山は二人にとって地元中の地元。地域の皆さんには、二人の成長を幼少の頃から見守り続けていただきました。二人の夢を誰よりも応援してくださっているのも、地元地域の方々。そんな皆さんに対し「何かお返しができないか」と二人が考えたのが、ライブを通して成長を報告し、感謝を表すことでした。

きつかけをくださったのは、サカタニさんでした。フリッパーズがデビュー間もない頃、まだ集客力のない二人のために、地元の方を大勢集めてライブを開催してくださいました。それは二人にとつてどれだけ励みになったか知れません。今では海外で演奏するまでになったフリッパーズ、冷蔵庫、洗濯機、掃除機、テレビ、ラジオ。大型家電も山ゴミの定番だ。よくもまあ辱めも無く、自分たちが生きていく大地の上に捨てられるなあと思うが、植物視点ではこれが人間だ。「ムリムリ！気狂いのように捨てる物しか作れない今の人間には無理！地球と自然と自分達の関係性について一切考えないんだもん。最重要事項がすっぱり抜けてる状態で、あいつら生きてるんだぜ」人間は、いつまで惨めで恥かしい行為を続けるのだろうか？「ねえ、私たちが結構我慢してきたんだし、もうそろそろ、人間いなくならせてもいいんじゃない？」このように植物たちの声が聞こえたら、人間にとつてかなり怖いことを話し合っているのかもしれない。(おわり)

編集後記

▽81歳になつて

波乱の続きで幾度も崖ふちに立ちました。が、ドン底に落ちずにきました。

▼それなりの努力はして、もうアカンか！。覚悟を決めた時、何故か「よい風」が来て大事に至らずに好転します。

▽幼い頃、欲しくて堪らない物を買ってくれない祖母に、毎日毎日おねだりをして、この子はシソイ子やと諦めさせてる手で買ってもらいました。

▼そんな「とんからりん」は189号。16年余に書き続けたことになりました。シソコで諦めの悪い性格で阿保やなど、思いながら書き続けてきました。

▽最近は一投稿を戴く方々が増え、記事の内容は豊富になってきました。残念なことには四月で「読者」が減少しました。友の会会員さんが減ったのです。

▼お知り合いの方をサカタニ友の会に誘って戴けませんか！年会費1200円ですが、ご承知のとおり絶対に「損」にはならない会です。宜しく願います。

▽お願い！こんな読みものです。が偶には、「感想等」の投稿を！